

クラス道徳

「人って、本当は？」



教材の内容

2000年以上前の中国の思想家、孟子と荀子の「性善説」と「性悪説」を紹介する教材です。「性善説」の、人はもともと、人を思いやる心をもつ、「善」から出発したものであるという考えと、「性悪説」の、人はもともと、争い、憎しみなどから出発した「悪」であるから、正しい生き方を学び努力すべきだ、という二つの説について考えました。

荀子の考え



人の性は悪なり
(性悪説)

孟子の考え



人に忍びざる心
(性善説)



よい行いをするためにはどうしたらいいか？



人はもともとよい心をもっている。

それを大切にしよう

2人の考え方に共感する、反発する部分を考えながら、議論しました。また、具体的な経験や体験談など、いろいろな視点から考えました。

どちらの考え方もより良く生きたいという考え方が基本にあります。

この考え方を参考にして、自分の生き方を見つめ直してみよう。

<みんなの考え>

- 人によって性格は違うし、人それぞれの善悪の考え方があると思う。そこで、自分なりの善に近づこうとする人が本当にいい人だと思う。(Hさん)
- 荀子の考えに、僕は共感する。指導者がいなければ、混沌とした状態になってしまう。道徳を学習する理由はまさしくこれではないかと思います。(Iくん)
- 生まれたときに良い心を持っていなくても心を育てていくことが大事だと思う。そこで心を育てられないと「大人になった」とは言えないと思うから。「人のために」って頑張れる人にはなれないと思うから。人を手伝っても「〇〇してあげた」って思わないぐらいにそういうことが当たり前にできる人になりたい。(Jさん)
- 生きていくのには、弱い心も優しい心も必要だと思います。弱い心はより良くしようと思えるし、優しい心はそれから育てていけると思います。だから、どちらの心も大切にして、心を育てていくことが、私の生き方につながるといいなと思いました。(Yさん)
- 人それぞれ個性があって考え方も違うから、「いい人」「悪い人」の区別できないと思う。100%善良な人も悪い人も、ある人から見ればとてもいい人かもしれない。人(自分も含めて)を悪か正義か判断するのは生まれながらできることじゃない。「こういうことをされた、嬉しい」「〇〇された。悲しい」とか自分の経験や成長で判断していくし、その判断も人生の中でコロコロ変わると思う。だから、私は自分が正しいと思うことをして成長していきたい。(Oさん)

私たちは皆、幸せになること目的に生きています。

(アンネ・フランク)

- 自分は、どちらかと言うと性善説だと思いましたが、意見交流をすると、自分勝手な部分もあるから性悪説でもあるかなと思いました。(Kくん)
- 善い人になるためには、良い考えも、それを批判的に見ることが出来る悪い考えも必要だと思った。それが片寄ると本当の善い人ではないと思った。(Eさん)
- 荀子の考えがあるから、孟子の考えがあると思う。あと、行きつく先は人それぞれちがうんじゃないかなと思った。(Uさん)
- 完璧な人にならなくていい、悪い所も受け止めて生きていくのが大切だと思った。(Mさん)
- この2人は最初は正反対やと思っていたけど、考えていくと最終的には同じなんだとわかった。人として当たり前のことをできるかどうかを、周りの人から良い人に思われようとせずに、素の心でできるようになりたいと思った。人は最終的にどちらでもないと思う。悪い人でも良い心はどこかにあるし、良い人でも悪い心はどこかにもっていると思う。(Sさん)
- 性善説も性悪説も正しいところはあるしどちらにも共感するなと思いました。二人とも共通する「よりよい人になるために努力しなさい。」ということを生かして、これからの私も頑張っていきたいと思いました。(Oさん)
- 今日の道徳は難しかった。両方の考えに共感できるけど、納得いく考えではないって思った。人助けできる人はやっぱり幸せをもらっていくんやなって感じた。(Kさん)

人を知る者は智なり、自ら知る者は明なり。

人に勝つ者は力有り、自らに勝つ者は強し。

(老子)